

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光、風、空気、四季を感じながら広々とした開放的な環境の中で生活できる。同敷地内にグループホームが隣接されており、デッキを通じ4ユニットの利用者同士の交流が図れる。また、担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内を一望できる高台に事業所はある。広い庭は芝生が覆っており、なだらかに畝っているため自然な雰囲気がある。西側は島の山々が見渡せ、夕日が空いっぱい広がるのが楽しめる、心安らかなロケーションである。事業所では利用者を一緒に暮らす個人として尊重する事に心を砕いている。いわゆる、利用者と職員の関係ではなく、人と人の付き合いである。それには利用者それぞれを知る事が重要で、一番難しい事と考えている。利用者の特性として、行動や発言に認知症のフィルターが掛かっており、その人の考えを理解するには、表出されている事象だけでなくあらゆる方向から利用者を見守る事が重要で、「毎日が勉強です」と管理者は笑っている。その笑顔には、利用者により良い生活を提供したいという決意が垣間見れる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) すばる

記入者(管理者)

氏 名 伊藤浩明

評価完了日 平成27年 10月 13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。毎年度末に各ユニットで見直し、振り返りをし、理念の変更・継続・追加等行っている。各ユニットごとに目に入る所に理念を掲示し、日々確認・実践できるように努めている。 (外部評価) 運営法人は「共に生きる」を理念に掲げ、各事業所が業務内容から「誰と」共に生きるのか、「どのように」共に生きるのか、と具体化した文面を作っている。事業所では、「誰と」とは、利用者であり、その家族であり、地域住民であり、そして職員の家族とも共に生きると捉えている。開設当初は「利用者」とだけでの視点であったが、それが地域住民や家族等、そして職員の家族と視野が広がっている。理念を着実に実践している表れであり、評価できる。	管理者の話を聞く中で、理念と目標と目的等が混在しているように感じる。理念は見直す、あるいは振り返るものであるが、年々に変更や追加を行うものではない。それが目標であれば、利用者の状態等で変更があり、職員のスキルで追加も行う必要がある。一度、理念とは何か、目的や目標とは何かを事業所内で話し合う時間を持って欲しい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の保育園、小学校、行事等イベントがある時には積極的に参加している。また、感謝祭、夏祭り、地域サロン活動、ボランティアの受け入れ等、ホームを会場として提供することもある。食材やその他買い物についても、地域の商店を利用している。ホームの広報誌を地域にお配りし、情報を発信している。 (外部評価) 事業所は高台にあり、そこは小規模な住宅地になっている。顔が見える付き合いをするには最適な規模であり、事業所では写真が多い機関誌を各戸に配布する活動を行っている。事業所から自己紹介を始めた事で、今では近所の人と立ち話をする関係を持っている。自治会活動も進んで参加しており、地域の一員としての役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月の広報誌にて、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となれるよう努めている。広報誌の中に認知症に関する情報を掲載することもある。笑みちゃんカフェを開催しており、誰でも参加できることをチラシにて周知し、世間話、GHのこと、入所の相談等、情報交換や情報提供を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) ホームでの日常の現状をお伝えしたり、日々の様子を写真や映 像も合わせて報告することもある。ホームで支援に困っている こと等、推進会議のメンバーにも報告し、助言やアドバイスを いただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は隣接している同法人の事業所と合同で開催して いる。各々が事業内容を丁寧に説明しているため、少し長めの 会議が特徴でもある。管理者は毎回、同じ福祉事業なのに隣と 内容が異なっている事を実感している。それは自分たちの事業 を見つめ直す機会にもなっており、合同で開催している意義と 言える。長時間の会議でも参加者は積極的な意見を出してお り、それぞれの事業所を良くしたいという思いが伝わってく る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 各種書類等は、速やかに市担当者へ届けるよう努めている。 ホームの運営において困ったことや分からないこと等は市担 当者に指示を仰いでいる。運営推進会議へ参加していただい たり、笑みちゃんカフェのチラシの配置を市役所内にお願いして いる。	
			(外部評価) 市内にはグループホームが十数カ所で、行政が事業形態を把握 するには適している数と言える。従って、事業所は市との連 携、事業者同士の連携、社協等の関係機関との連携と、幅広い ネットワークができています。現在、市担当者から運営推進会議 の報告書を統一するよう提案されている。ネットワークをより 堅固にする取り組みであるし、普段から事業所と市担当者が細か な事まで話し合っている現れでもある。	市内で認知症カフェの取組みが始まっており、事業所 でも笑みちゃんカフェを実施している。他の事業所も 独自で行っているが、行政等と連携が強固でもあるこ とから、ネットワークを利用して、認知症を市民に理 解して貰うことを目的に統一する取組みをしてはどう だろうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部または内部研修を受け、身体拘束について理解している。 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、リスクのある方に 対して家族との相談・意向の確認・同意のうえ、やむをえず身体 拘束を行っているケースがある。	
			(外部評価) 管理者は、混乱の激しい利用者に鍵の拘束をしていた経緯か ら、施錠とは精神的にも拘束感が強い事を痛感している。安全 を取るか、行動の自由を取るかの選択を迫られた場合、命を守 る事が最優先である事を改めて感じているが、ある意味、専門 職ならではの苦悩も味わっている。ケア内容に工夫を重ね現在 は施錠をしていない。管理者は、身体拘束ゼロにすることの難 しさを知った上でも、それを目指す大事さを実感している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を受け、虐待について理解している。少しの傷やあざ等、全身状態の把握にも努め、原因を探り報告し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明することを心がけている。契約の中で分からないことや、疑問に思うことはその都度、確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々のコミュニケーションを通して意思や思いを聞きとれるよう努め、個別的な支援も行っている。参加の家族が今のところ少ないが、半年に1度家族会を行っており、堅苦しくなく意見の言いやすい会を目指し取り組んでいる。家族とは特に面会時には情報交換を行っている。 (外部評価) 利用者には担当職員がおり、毎月その人の暮らしぶりのお知らせを家族等書いている。それが面会の多い利用者は話題の接ぎ穂になり、遠方の家族には状態を理解する事に役立っている。また、家族会も始めている。家族等が意見や要望を言いやすい会にしたいとの取り組みである。まだ開催は3回だけで、参加家族が少なく成果は表れていないが、家族等を思っている取り組みと言える。	面会時に管理者や職員に正面を切って話しをする事は家族等にとっては中々できる事ではなく会議で発言する等はさらに難しい事である。そのため家族等の本音を聞き出す目的で事業所の催し物の準備に家族等を参加して貰ってはどうか。準備作業を職員と共にする中で、本音を聞けることは多々あると思われる。

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ユニット会、ミーティングを行い、その他リーダー会、各委員会の集まり、行事に向けての集まりなど、定期的にあるものと随時開催するものがある。その中で意見を出し合い各職員からも声を聞き、計画・実施できるよう努めている。 (外部評価) 管理者は生え抜きの職員で、キャリアはあるが年齢は若い。職員は断然年上が多い中で管理職として業務にあたっている。しかし、その姿勢には無理がなく、丁寧に行っていることから職員との関係は良い。管理者の言葉の使い方に配慮があることがポイントなのかもしれない。また、管理者が介護シフトに入り、同じ職員として現場で意見を出し合いながら一緒に業務を遂行しており、管理者は日頃から職員の意見を聞いていることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 緊急時の連絡・対応ができる環境にあり、夜勤帯の職員の安心感につながっている。リフレッシュ休暇(有給)、資格手当、できる限り家庭状況を考慮したシフト作りをしている。研修について参加費など費用を事業所が負担する仕組みもあり、職員が参加しやすいよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、ミーティング等で内容の報告、共有に努めている。新任者研修(内部研修)を実施している。各ユニットには研修案内ファイルを置き、どのような研修があるのか職員がわかるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム交流会で意見交換や交流を行っている。その他、相互研修、勉強会、ホームの行事等で他のホームとの交流も継続している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはホームをゆっくり見学してもらったり、ホームの日常を見たりユニットで過ごしていただくこともある。事前にカンファレンスを行い、本人に対する支援の方針や情報共有、職員の意識の統一を図っている。特に初期は本人に寄り添い、ホームでの生活で不安や混乱ができるだけ少なくなるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの見学をしてもらい、不安や疑問等がないよう意見交換を行っている。以前に受けていたサービスでの様子を聞いたり家族が思いや要望を言いやすいよう努めている。必要に応じてこまめに連絡をとったり相談を行い、職員から出た意見等も家族に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と十分に話し合い、意向の確認を行っている。日々の記録や、申し送り、ユニット会などで、情報を共有し、どう支援していくべきかを随時話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活全般において、できることはしていただきながら利用者・職員が共に支え合う意識で、利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を気付いている。利用者にとっては日常の仕事が自分の役割になっている方もおられる。利用者から教えてもらう知識や作法も多々あり、コミュニケーションを図っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月各担当が、お手紙を書いたり、何か変化があった時等家族へ報告し、日頃の様子などを伝えている。行事に家族を招待したり、敬老会では家族からのお手紙をご協力いただいた。受診時、外出、外食、面会などできる範囲で家族に協力を頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) かかりつけ医、馴染みの美容院、お墓参り等利用者からの希望があった際や定期的に継続できるよう努めている。地元のお祭りに見に行ったり、故郷へ行ったり、友人にホームにお越しいただいたり、手紙のやり取りをしたり、個別的な支援も行いながら、馴染みの関係はできるだけ、優先しながら考えている。 (外部評価) 高台にある事業所の庭から市内が一望でき、以前暮らしていた場所から眺めた山並みが見え、住んでいた島を眺める事ができる利用者もいる。利用者は景色を眺めながら、「あの辺はみかんがよう取れた」とか「あそこの柿は旨い」などの話が出る事が多い。職員は、記憶があるうちにと利用者と一緒にその場所を訪れる事もある。庭からの雄大な眺めがそうさせたのだが、実際に支援しているのは職員であり、馴染みの人や場の関係継続支援である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で声を掛け合ったり、お互いをいたわる場面も見られる。難聴がある利用者同士の会話を職員が橋渡し、関われるよう支援している。また、レクリエーションを通して共に楽しんだり、協力し合える関係構築に努めている。利用者の性格や特性を把握し、支援にあたっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された後、ユニット職員で利用者に対する思いやメッセージを手紙に書き、ホームで過ごされた時の写真と合わせてお渡ししている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話、コミュニケーションに努めており、その中で思いを知ることあれば、本人から言ってもらうこともある。気付き等は、日頃の申し送りやユニット会で報告・検討している。 (外部評価) 事業所では利用者が何がしたいかは言葉で判断するだけでなく、その裏に本音が隠れている場合もあると考えている。その理由は遠慮であったり、強がりであったりと利用者により様々である。また、集団生活であるために個々の本音はより深く沈んでいることが多い。意向を知るには話をよく聞く事が重要で、職員は利用者の言葉を聞き逃さないように耳を傾けている。お風呂の時間や就寝介助の際に、「内緒の話やけど」と言いやすい雰囲気作りにも余念がない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人または家族や知人、ケアマネージャー、関係の方等が必要に応じて生活歴やこれまでの生活に関すること等をお聞きしている。新しい情報は申し送りやユニット会で報告し、シートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送りの際は、情報を共有できるように努め、本人の現状に対してどのように支援していくべきかを職員同士で確認している。日々の記録を活用しながら、ユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスを行い、課題の把握とケアの在り方について検討している。状況に合わせてその都度ケアプランを変更している。担当者が認定更新ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認を行い介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は、センター方式に事業所なりのアレンジを加え活用しており、モニタリングのために番号を統一する等の工夫が見える。まだまだ試行錯誤と管理者は謙遜するが、利用者の状態が文章を通して浮かんでくるような記録である。利用者毎の担当職員が介護計画の素案を作成するために、介護日誌にも目を通しモニタリングを行っている。管理者は、記録を職員のスキルを見る物差しにもしており、有用に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきた時は、記録の様式を工夫したり、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体操や運動、レクリエーションを積極的に行っている。サロン(地域の高齢者の集い)の際、ホームを会場として提供し、地域の方が利用者と一緒にゲームや体操など共に時間を過ごすこともある。遠方の家族が帰省された際、ホームに泊っていただくこともある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、小学校との交流や地域ボランティア、カラオケ、詩吟、演劇等さまざまなイベントを行って頂いている。地域の商店にも来所してもらっている。避難訓練では地域の消防団の協力も得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医への通院は、家族にも協力を得ながら継続している。協力医への変更は体調も安定し、家族との相談をし実施している。体調の変化についてはすぐに対応できるよう努め、協力医の協力も大きい。受診機関について家族とよく話し合い、利用者の状態に合わせて受診機関を変更することもある。 (外部評価) 事業所の協力医が定期的に往診してくれるので、かかりつけ医に変更する利用者が多い。高台にある事業所のためやはり受診に行く事に負担感を持っているのだろう。車であれば市内の中心部まですぐなので、耳鼻科や歯科等の専門科受診は家族が介護タクシーを利用する事もあり、車の手配などを支援している。管理者は医院に行く前に利用者の状態を家族に伝える事は忘れずに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤の看護師2名、非常勤の看護師1名配置しており、常に介護職と看護職が情報を共有できるよう努めている。体調の変化や気付きは、まず看護師に相談している。訪問看護を利用することもあり、その際は、口頭、記録ノートで情報交換を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況等の情報提供を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点等指導を受けている。また、入院中は職員もできるだけ面会に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めの段階で対応できるよう努め、家族とも意向の確認等、連携をとっている。ホームでできること、できないことなどの説明も行い家族も納得できるよう心がけている。終末期には主治医と本人または家族、職員でカンファレンスを行いながら、以後どのような支援や経過をたどっていくのか、情報交換をしている。 (外部評価) 事業所入居の際、本人や家族等に、医療的ケアは難しい事と口から栄養摂取が可能である事がここで生活できる条件と説明している。その後の生活の場は、管理者や法人運営者等が適切な場所を家族と一緒に見つかるまで探している。家族等は次に移る期限が決められている訳ではないので、落ち着いて探すことができている。また、福祉職スタッフで対応できる場合は事業所内で看取る場合もある。近年家族等からの要望も増えて来ているので、福祉職のできるケアを再度スタッフ内で確認を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。救命救急講習を受講していたり、社内社外研修に参加しているが、いざという時に実践できるかどうか不安な面がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を行っており、最悪の想定での訓練も取り入れ実施している。地域の消防団の協力も得ながら、訓練を行っている。地域特に近隣住民との協力体制はとれていない。 (外部評価) 避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防署の指導の下で隣接している事業所と一緒にやっている。年間に3回行っている事業所は少なく、利用者の命を守る事への真剣さが窺える。管理者は訓練する度に、本当に災害が起こった場合にはパニックも想定する事が必要と感じている。思いつくリスクを減らすようにと年々訓練に真剣さが増しているようだ。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくりとやさしく耳元で声かけすることで、プライバシーや尊厳を守れるよう努めている。一人一人をよく理解し、個性を尊重し違いを把握した上で、個別の接し方やケアの方法に気をつけている。親しくなりすぎていたり、言葉づかいにも気をつけている。 (外部評価) 管理者は、人格を尊重することは、その人を知ることが原点であると、職員教育に心を砕いている。利用者への呼びかけを名字ではなく名前で行っているのも、個々人として対応する拘りである。昼食時、和やかな会話が聞こえてきたが、人と人というお互いの関係があるので生まれていた雰囲気なのだろう。対人サービスの基本がしっかりしているケアで評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出やドライブ、行事への参加等本人の希望を聞き参加できるよう努めている。何かを行う前には本人の意思を聞き取り、意思に沿って支援している。日々の飲み物や、買い物、洋服選びなどできるだけ本人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声かけしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、気象や食事など本人のペースや体調に合わせたり希望に沿って支援している。別ユニットで過ごす利用者もおられ、好きなところで過ごせるよう見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ホームで毛染めをしたり、行きつけの美容院へ行く支援を希望により実施している。ボランティアの協力もありホームで月に1度散髪も行っている。行事の時などは化粧や日頃よりも少しオシャレができるよう洋服選びや準備をしている。衣替えなども一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備、調理、味見、盛り付け、片付け等、利用者それぞれにできることをしていただきながら、コミュニケーションを図りながら実施している。好き嫌いや、形態なども考慮し、利用者が気持ちよく食事できるよう配慮している。弁当や仕出し、外食に出かけることもあり、デッキや芝生等ホームの外で食事することもある。畑でできた物を収穫する時もある。 (外部評価) 食事の献立表を見ていて、時間の見当識に対する配慮がある事を理解した。昼食はうどんやそば、お寿司等ちょっとだけ特別感のある献立にしている。一日中事業所に居る利用者が多いため、食事で時間を意識できるような配慮である。朝食は決められた曜日で和食と洋食に分けている。これも週単位が意識できる仕組みと言える。食事は手作りで優しい味付けであり、それに認知症ケアという専門的なエッセンスを加えている心憎い食事支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節や状況によって水分補給できる機会を増やし、脱水予防に努めたり、水分量、尿量、体重の増減などを把握できるようにしている。利用者それぞれに合わせて食べやすいもの、飲みやすいもの、の工夫をしている。ウォータークーラーを設置し、水分補給できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの声かけや介助、必要に応じて歯科受診や往診を受けている。その方に合った用具や用品も検討し、購入している。義歯は定期的にポリドント洗浄を行ったり、通院で口腔内の汚れをとってもらっている方もおられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者それぞれの状況に合わせてトイレでの排泄、トイレ誘導、おむつ、Pトイレ使用などを行っている。基本的には不要なおむつ類はできるだけ減らし、トイレでの排泄を念頭に置いている。本人のしぐさやタイミング等を把握し対応している。 (外部評価) 利用者の殆んどが昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットを活用している。昼食後、職員が利用者の耳元で笑顔で内緒話をしていた。終わると利用者が立ち上り、職員に話しかけながらトイレに行っていた。職員のトイレ誘導に配慮が見えたシーンで、利用者の生活の質を見極めた支援と言える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給と、日頃からの運動を心がけている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で内服を行いコントロールしている。また、内服薬の違いでも排泄に影響するので、本人に合った内服薬を調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10時から17時の間、利用者に合わせて入浴している。人数や回数の制限は設けていない。必要に応じて足浴、下半身浴、清拭、リフト浴を利用している。また、隣のGHに機械浴があり、利用することもある。 (外部評価) 入浴後、頬をピンクに染めた利用者と同じテーブルで食事を頂いた。饒舌だったのはお風呂が楽しい時間だったからであろう。入浴は集団生活の中で個人に帰れる時間で、職員も利用者個人個人に携われる特別な時間である。本音を吐露する事で心もさっぱりして貰いたいと精神的なケアにも力を入れ、普段から入浴が楽しみになるような支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、日中も横になる時間を設けたり、体を休める時間も作っている。室温、照明、空気の乾燥、エアマットの検討なども行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で各担当ごとの薬を準備し、内容の確認に努めている。内服が変更になった時には日誌になぜ変わったのかも記入し、職員で周知徹底している。服薬名を覚えることで、目的や副作用も理解できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活全般において各利用者にとって自分の仕事として進んでされている場面もある。声かけやこちらからの提案がなくても、利用者から気付き行ってくれたり、取り組んでくれることもある。笑みちゃんカフェ(ホームが開催する喫茶)、はまゆうの会(男子会)を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てお店に買い物に出かけたり、お墓参りに出かけた、日々の買い物や外食に出かけたりと、少数～ユニットごと等で出かけることもある。家族と一緒に外出したり外食される方もいる。地域の祭りなどへ見学に行く等、行事にも参加している。 (外部評価) 事業者は、リビングからデッキを経由して庭に出る事ができ、外気浴のため自然と近所に散歩ができる。反面、高台にあるために坂道が急で、ちょっとした買い物も車が不可欠となる。対策には車両の整備が必要となるが、幸い事業所は単独ではなく隣接する居宅事業等で車両数は多く安心である。遠出にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、職員が代行して支払いすることも多いが、できる方は自分で支払えるよう支援している。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームの電話を使う方、電話の取り次ぎが必要な方それぞれに合わせて希望があれば支援している。手紙の投函を職員で代行している方もおられる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことができるようになっている。季節の掲示物、グリーンカーテンや植物等季節に合わせて利用者と一緒に取り組んでいる。一人で過ごせる環境と、複数で過ごせる環境もある。 (外部評価) 共用空間は南側にリビングとダイニングが分かれ、ゆったりとした広さである。掃出しの大きな窓がデッキに続いているので、より広く感じられる。共用空間は、ユニットのホールや居室の廊下も繋がっており、それぞれにちょっとしたコーナーになっている。いすが置かれているので、好きな場所で利用者が寛いでいる。台所がオープンであるため料理の匂いが漂い家庭的な雰囲気である。また、アンティークな家具が居心地の良い空間に仕上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 図書コーナーの設置は興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンカウンターやデッキ、ソファ等の配置により、思い思いの場所で自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスやソファ、テレビなど持ってこられており使われている。お位牌や家族の写真、塗り絵、絵画などを飾っておられる方もいる。必要時には家族も居室に泊れるようソファベッドも準備している。 (外部評価) 居室には介護用のベッドが備え付けられている。利用者の身体状況に配慮しベッドの配置は部屋によって異なっている。利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。また、洗面設備を各部屋に設えているので、口腔ケアだけでなく身繕いを自分の部屋で行うことができる。プライベート感が一層高まっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や車いす、Pトイレの位置など本人の力に合わせて設定している。夜間の照明の調整やトイレの表示、動線の確保等工夫している。ヒヤリハットが出た際は対策を話し合い、事故防止に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光、風、空気、四季を感じながら広々とした開放的な環境の中で生活できる。同敷地内にグループホームが隣接されており、デッキを通じ4ユニットの利用者同士の交流が図れる。また、担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内を一望できる高台に事業所はある。広い庭は芝生が覆っており、なだらかに畝っているため自然な雰囲気がある。西側は島の山々が見渡せ、夕日が空いっぱい広がるのが楽しめる、心安らかなロケーションである。事業所では利用者を一緒に暮らす個人として尊重する事に心を砕いている。いわゆる、利用者と職員の関係ではなく、人と人の付き合いである。それには利用者それぞれを知る事が重要で、一番難しい事と考えている。利用者の特性として、行動や発言に認知症のフィルターが掛かっており、その人の考えを理解するには、表出されている事象だけでなくあらゆる方向から利用者を見守る事が重要で、「毎日が勉強です」と管理者は笑っている。その笑顔には、利用者により良い生活を提供したいという決意が垣間見れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) ほたる

記入者(管理者)

氏 名 伊藤浩明

評価完了日 平成27年 10月 13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を 共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。毎年度末に各ユニットで見直し、振り返りをし、理念の変更・継続・追加等行っている。各ユニットごとに目に入る所に理念を掲示し、日々確認・実践できるように努めている。 (外部評価) 運営法人は「共に生きる」を理念に掲げ、各事業所が業務内容から「誰と」共に生きるのか、「どのように」共に生きるのか、と具体化した文面を作っている。事業所では、「誰と」とは、利用者であり、その家族であり、地域住民であり、そして職員の家族とも共に生きると捉えている。開設当初は「利用者」とだけでの視点であったが、それが地域住民や家族等、そして職員の家族と視野が広がっている。理念を着実に実践している表れであり、評価できる。	管理者の話を聞く中で、理念と目標と目的等が混在しているように感じる。理念は見直す、あるいは振り返るものであるが、年々に変更や追加を行うものではない。それが目標であれば、利用者の状態等で変更があり、職員のスキルで追加も行う必要がある。一度、理念とは何か、目的や目標とは何かを事業所内で話し合う時間を持って欲しい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の保育園、小学校、行事等イベントがある時には積極的に参加している。また、感謝祭、夏祭り、地域サロン活動、ボランティアの受け入れ等、ホームを会場として提供することもある。食材やその他買い物についても、地域の商店を利用している。ホームの広報誌を地域にお配りし、情報を発信している。 (外部評価) 事業所は高台にあり、そこは小規模な住宅地になっている。顔が見える付き合いをするには最適な規模であり、事業所では写真が多い機関誌を各戸に配布する活動を行っている。事業所から自己紹介を始めた事で、今では近所の人と立ち話をする関係を持っている。自治会活動も進んで参加しており、地域の一員としての役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 向けて活かしている	(自己評価) 毎月の広報誌にて、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となれるよう努めている。広報誌の中に認知症に関する情報を掲載することもある。笑みちゃんカフェを開催しており、誰でも参加できることをチラシにて周知し、世間話、GHのこと、入所の相談等、情報交換や情報提供を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) ホームでの日常の現状をお伝えしたり、日々の様子を写真や映 像も合わせて報告することもある。ホームで支援に困っている こと等、推進会議のメンバーにも報告し、助言やアドバイスを いただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は隣接している同法人の事業所と合同で開催して いる。各々が事業内容を丁寧に説明しているため、少し長めの 会議が特徴でもある。管理者は毎回、同じ福祉事業なのに隣と 内容が異なっている事を実感している。それは自分たちの事業 を見つめ直す機会にもなっており、合同で開催している意義と 言える。長時間の会議でも参加者は積極的な意見を出してお り、それぞれの事業所を良くしたいという思いが伝わってく る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 各種書類等は、速やかに市担当者へ届けるよう努めている。 ホームの運営において困ったことや分からないこと等は市担 当者に指示を仰いでいる。運営推進会議へ参加していただい たり、笑みちゃんカフェのチラシの配置を市役所内をお願いし ている。	
			(外部評価) 市内にはグループホームが十数カ所で、行政が事業形態を把握 するには適している数と言える。従って、事業所は市との連 携、事業者同士の連携、社協等の関係機関との連携と、幅広い ネットワークができています。現在、市担当者から運営推進会議 の報告書を統一するよう提案されている。ネットワークをより 堅固にする取組みであるし、普段から事業所と市担当者が細か な事まで話し合っている現れでもある。	市内で認知症カフェの取組みが始まっており、事業所 でも笑みちゃんカフェを実施している。他の事業所も 独自で行っているが、行政等と連携が強固でもあるこ とから、ネットワークを利用して、認知症を市民に理 解して貰うことを目的に統一する取組みをしてはどう だろうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部または内部研修を受け、身体拘束について理解している。 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、リスクのある方に 対して家族との相談・意向の確認・同意のうえ、やむをえず身体 拘束を行っているケースがある。	
			(外部評価) 管理者は、混乱の激しい利用者に鍵の拘束をしていた経緯か ら、施錠とは精神的にも拘束感が強い事を痛感している。安全 を取るか、行動の自由を取るかの選択を迫られた場合、命を守 る事が最優先である事を改めて感じているが、ある意味、専門 職ならではの苦悩も味わっている。ケア内容に工夫を重ね現在 は施錠をしていない。管理者は、身体拘束ゼロにすることの難 しさを知った上でも、それを目指す大事さを実感している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を受け、虐待について理解している。少しの傷やあざ等、全身状態の把握にも努め、原因を探り報告し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明することを心がけている。契約の中で分からないことや、疑問に思うことはその都度、確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々のコミュニケーションを通して意思や思いを聞きとれるよう努め、個別的な支援も行っている。参加の家族が今のところ少ないが、半年に1度家族会を行っており、堅苦しくなく意見の言いやすい会を目指し取り組んでいる。家族とは特に面会時には情報交換を行っている。 (外部評価) 利用者には担当職員がおり、毎月その人の暮らしぶりのお知らせを家族等書いている。それが面会の多い利用者は話題の接ぎ穂になり、遠方の家族には状態を理解する事に役立っている。また、家族会も始めている。家族等が意見や要望を言いやすい会にしたいとの取組みである。まだ開催は3回だけで、参加家族が少なく成果は表れていないが、家族等を思っている取組みと言える。	面会時に管理者や職員に正面を切って話しをする事は家族等にとっては中々できる事ではなく会議で発言する等はさらに難しい事である。そのため家族等の本音を聞き出す目的で事業所の催し物の準備に家族等を参加して貰ってはどうか。準備作業を職員と共にする中で、本音を聞けることは多々あると思われる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ユニット会、ミーティングを行い、その他リーダー会、各委員会の集まり、行事に向けての集まりなど、定期的にあるものと随時開催するものがある。その中で意見を出し合い各職員からも声を聞き、計画・実施できるよう努めている。 (外部評価) 管理者は生え抜きの職員で、キャリアはあるが年齢は若い。職員は断然年上が多い中で管理職として業務にあたっている。しかし、その姿勢には無理がなく、丁寧に行っていることから職員との関係は良い。管理者の言葉の使い方に配慮があることがポイントなのかもしれない。また、管理者が介護シフトに入り、同じ職員として現場で意見を出し合いながら一緒に業務を遂行しており、管理者は日頃から職員の意見を聞いていることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 緊急時の連絡・対応ができる環境にあり、夜勤帯の職員の安心感につながっている。リフレッシュ休暇(有給)、資格手当、できる限り家庭状況を考慮したシフト作りをしている。研修について参加費など費用を事業所が負担する仕組みもあり、職員が参加しやすいよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、ミーティング等で内容の報告、共有に努めている。新任者研修(内部研修)を実施している。各ユニットには研修案内ファイルを置き、どのような研修があるのか職員がわかるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム交流会で意見交換や交流を行っている。その他、相互研修、勉強会、ホームの行事等で他のホームとの交流も継続している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはホームをゆっくり見学してもらったり、ホームの日常を見たりユニットで過ごしていただくこともある。事前にカンファレンスを行い、本人に対する支援の方針や情報共有、職員の意識の統一を図っている。特に初期は本人に寄り添い、ホームでの生活で不安や混乱ができるだけ少なくなるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの見学をしてもらい、不安や疑問等がないよう意見交換を行っている。以前に受けていたサービスでの様子を聞いたり家族が思いや要望を言いやすいよう努めている。必要に応じてこまめに連絡をとったり相談を行い、職員から出た意見等も家族に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と十分に話し合い、意向の確認を行っている。日々の記録や、申し送り、ユニット会などで、情報を共有し、どう支援していくべきかを随時話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活全般において、できることはしていただきながら利用者・職員が共に支え合う意識で、利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を気付いている。利用者にとっては日常の仕事が自分の役割になっている方もおられる。利用者から教えてもらう知識や作法も多々あり、コミュニケーションを図っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月各担当が、お手紙を書いたり、何か変化があった時等家族へ報告し、日頃の様子などを伝えている。行事に家族を招待したり、敬老会では家族からのお手紙をご協力いただいた。受診時、外出、外食、面会などできる範囲で家族に協力を頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) かかりつけ医、馴染みの美容院、お墓参り等利用者からの希望があった際や定期的に継続できるよう努めている。地元のお祭りを見に行ったり、故郷へ行ったり、友人にホームにお越しいただいたり、手紙のやり取りをしたり、個別的な支援も行いながら、馴染みの関係はできるだけ、優先しながら考えている。 (外部評価) 高台にある事業所の庭から市内が一望でき、以前暮らしていた場所から眺めた山並みが見え、住んでいた島を眺める事ができる利用者もいる。利用者は景色を眺めながら、「あの辺はみかんがよう取れた」とか「あそこの柿は旨い」などの話が出る事が多い。職員は、記憶があるうちにと利用者と一緒にその場所を訪れる事もある。庭からの雄大な眺めがそうさせたのだが、実際に支援しているのは職員であり、馴染みの人や場の関係継続支援である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で声を掛け合ったり、お互いをいたわる場面も見られる。難聴がある利用者同士の会話を職員が橋渡し、関われるよう支援している。また、レクリエーションを通して共に楽しんだり、協力し合える関係構築に努めている。利用者の性格や特性を把握し、支援にあたっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された後、ユニット職員で利用者に対する思いやメッセージを手紙に書き、ホームで過ごされた時の写真と合わせてお渡ししている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話、コミュニケーションに努めており、その中で思いを知ることあれば、本人から言ってもらえることもある。気付き等は、日頃の申し送りやユニット会で報告・検討している。 (外部評価) 事業所では利用者が何がしたいかは言葉で判断するだけでなく、その裏に本音が隠れている場合もあると考えている。その理由は遠慮であったり、強がりであったりと利用者により様々である。また、集団生活であるために個々の本音はより深く沈んでいることが多い。意向を知るには話をよく聞く事が重要で、職員は利用者の言葉を聞き逃さないように耳を傾けている。お風呂の時間や就寝介助の際に、「内緒の話やけど」と言いやすい雰囲気作りにも余念がない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人または家族や知人、ケアマネージャー、関係の方等が必要に応じて生活歴やこれまでの生活に関する事等をお聞きしている。新しい情報は申し送りやユニット会で報告し、シートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送りの際は、情報を共有できるように努め、本人の現状に対してどのように支援していくべきかを職員同士で確認している。日々の記録を活用しながら、ユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスを行い、課題の把握とケアの在り方について検討している。状況に合わせてその都度ケアプランを変更している。担当者が認定更新ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認を行い介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は、センター方式に事業所なりのアレンジを加え活用しており、モニタリングのために番号を統一する等の工夫が見える。まだまだ試行錯誤と管理者は謙遜するが、利用者の状態が文章を通して浮かんでくるような記録である。利用者毎の担当職員が介護計画の素案を作成するために、介護日誌にも目を通しモニタリングを行っている。管理者は、記録を職員のスキルを見る物差しにもしており、有用に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきた時は、記録の様式を工夫したり、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体操や運動、レクリエーションを積極的に行っている。サロン(地域の高齢者の集い)の際、ホームを会場として提供し、地域の方が利用者と一緒にゲームや体操など共に時間を過ごすこともある。遠方の家族が帰省された際、ホームに泊っていただくこともある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、小学校との交流や地域ボランティア、カラオケ、詩吟、演劇等さまざまなイベントを行って頂いている。地域の商店にも来所してもらっている。避難訓練では地域の消防団の協力も得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医への通院は、家族にも協力を得ながら継続している。協力医への変更は体調も安定し、家族との相談をし実施している。体調の変化についてはすぐに対応できるよう努め、協力医の協力も大きい。受診機関について家族とよく話し合い、利用者の状態に合わせて受診機関を変更することもある。 (外部評価) 事業所の協力医が定期的に往診してくれるので、かかりつけ医に変更する利用者が多い。高台にある事業所のためやはり受診に行く事に負担感を持っているのだろう。車であれば市内の中心部まですぐなので、耳鼻科や歯科等の専門科受診は家族が介護タクシーを利用する事もあり、車の手配などを支援している。管理者は医院に行く前に利用者の状態を家族に伝える事は忘れずに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤の看護師2名、非常勤の看護師1名配置しており、常に介護職と看護職が情報を共有できるよう努めている。体調の変化や気付きは、まず看護師に相談している。訪問看護を利用することもあり、その際は、口頭、記録ノートで情報交換を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況等の情報提供を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点等指導を受けている。また、入院中は職員もできるだけ面会に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めの段階で対応できるよう努め、家族とも意向の確認等、連携をとっている。ホームでできること、できないことなどの説明も行い家族も納得できるよう心がけている。終末期には主治医と本人または家族、職員でカンファレンスを行いながら、以後どのような支援や経過をたどっていくのか、情報交換をしている。 (外部評価) 事業所入居の際、本人や家族等に、医療的ケアは難しい事と口から栄養摂取が可能である事がここで生活できる条件と説明している。その後の生活の場は、管理者や法人運営者等が適切な場所を家族と一緒に見つかるまで探している。家族等は次に移る期限が決められている訳ではないので、落ち着いて探すことができている。また、福祉職スタッフで対応できる場合は事業所内で看取る場合もある。近年家族等からの要望も増えて来ているので、福祉職のできるケアを再度スタッフ内で確認を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。救命救急講習を受講していたり、社内社外研修に参加しているが、いざという時に実践できるかどうか不安な面がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を行っており、最悪の想定での訓練も取り入れ実施している。地域の消防団の協力も得ながら、訓練を行っている。地域特に近隣住民との協力体制はとれていない。 (外部評価) 避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防署の指導の下で隣接している事業所と一緒にやっている。年間に3回行っている事業所は少なく、利用者の命を守る事への真剣さが窺える。管理者は訓練する度に、本当に災害が起こった場合にはパニックも想定する事が必要と感じている。思いつくリスクを減らすようにと年々訓練に真剣さが増しているようだ。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくりとやさしく耳元で声かけすることで、プライバシーや尊厳を守れるよう努めている。一人一人をよく理解し、個性を尊重し違いを把握した上で、個別の接し方やケアの方法に気をつけている。親しくなりすぎていたり、言葉づかいにも気をつけている。 (外部評価) 管理者は、人格を尊重することは、その人を知ることが原点であると、職員教育に心を砕いている。利用者への呼びかけを名字ではなく名前で行っているのも、個々人として対応する拘りである。昼食時、和やかな会話が聞こえてきたが、人と人というお互いのある関係があるので生まれていた雰囲気なのだろう。対人サービスの基本がしっかりしているケアで評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出やドライブ、行事への参加等本人の希望を聞き参加できるよう努めている。何かを行う前には本人の意思を聞き取り、意思に沿って支援している。日々の飲み物や、買い物、洋服選びなどできるだけ本人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声かけしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、気象や食事など本人のペースや体調に合わせたり希望に沿って支援している。別ユニットで過ごす利用者もおられ、好きなところで過ごせるよう見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ホームで毛染めをしたり、行きつけの美容院へ行く支援を希望により実施している。ボランティアの協力もありホームで月に1度散髪も行っている。行事の時などは化粧や日頃よりも少しオシャレができるよう洋服選びや準備をしている。衣替えなども一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備、調理、味見、盛り付け、片付け等、利用者それぞれにできることをしていただきながら、コミュニケーションを図りながら実施している。好き嫌いや、形態なども考慮し、利用者が気持ちよく食事できるよう配慮している。弁当や仕出し、外食に出かけることもあり、デッキや芝生等ホームの外で食事することもある。畑でできた物を収穫する時もある。 (外部評価) 食事の献立表を見ていて、時間の見当識に対する配慮がある事を理解した。昼食はうどんやそば、お寿司等ちょっとだけ特別感のある献立にしている。一日中事業所に居る利用者が多いため、食事で時間を意識できるような配慮である。朝食は決められた曜日で和食と洋食に分けている。これも週単位が意識できる仕組みと言える。食事は手作りで優しい味付けであり、それに認知症ケアという専門的なエッセンスを加えている心憎い食事支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節や状況によって水分補給できる機会を増やし、脱水予防に努めたり、水分量、尿量、体重の増減などを把握できるようにしている。利用者それぞれに合わせて食べやすいもの、飲みやすいもの、の工夫をしている。ウォータークーラーを設置し、水分補給できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの声かけや介助、必要に応じて歯科受診や往診を受けている。その方に合った用具や用品も検討し、購入している。義歯は定期的にポリデント洗浄を行ったり、通院で口腔内の汚れをとってもらっている方もおられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者それぞれの状況に合わせてトイレでの排泄、トイレ誘導、おむつ、Pトイレ使用などを行っている。基本的には不要なおむつ類はできるだけ減らし、トイレでの排泄を念頭に置いている。本人のしぐさやタイミング等を把握し対応している。 (外部評価) 利用者の殆んどが昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットを活用している。昼食後、職員が利用者の耳元で笑顔で内緒話をしていた。終わると利用者が立ち上り、職員に話しかけながらトイレに行っていた。職員のトイレ誘導に配慮が見えたシーンで、利用者の生活の質を見極めた支援と言える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給と、日頃からの運動を心がけている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で内服を行いコントロールしている。また、内服薬の違いでも排泄に影響するので、本人に合った内服薬を調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10時から17時の間、利用者に合わせて入浴している。人数や回数の制限は設けていない。必要に応じて足浴、下半身浴、清拭、リフト浴を利用している。また、隣のGHに機械浴があり、利用することもある。 (外部評価) 入浴後、頬をピンクに染めた利用者と同じテーブルで食事を頂いた。饒舌だったのはお風呂が楽しい時間だったからであろう。入浴は集団生活の中で個人に帰れる時間で、職員も利用者個人個人に携われる特別な時間である。本音を吐露する事で心もさっぱりして貰いたいと精神的なケアにも力を入れ、普段から入浴が楽しみになるような支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、日中も横になる時間を設けたり、体を休める時間も作っている。室温、照明、空気の乾燥、エアマットの検討なども行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で各担当ごとの薬を準備し、内容の確認に努めている。内服が変更になった時には日誌になぜ変わったのかも記入し、職員で周知徹底している。服薬名を覚えることで、目的や副作用も理解できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活全般において各利用者にとって自分の仕事として進んでされている場面もある。声かけやこちらからの提案がなくても、利用者から気付き行ってくれたり、取り組んでくれることもある。笑みちゃんカフェ(ホームが開催する喫茶)、はまゆうの会(男子会)を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てお店に買い物に出かけたり、お墓参りに出かけた、日々の買い物や外食に出かけたりと、少数～ユニットごと等で出かけることもある。家族と一緒に外出したり外食される方もいる。地域の祭りなどへ見学に行く等、行事にも参加している。 (外部評価) 事業者は、リビングからデッキを経由して庭に出る事ができ、外気浴のため自然と近所に散歩ができる。反面、高台にあるために坂道が急で、ちょっとした買い物も車が不可欠となる。対策には車両の整備が必要となるが、幸い事業所は単独ではなく隣接する居宅事業等で車両数は多く安心である。遠出にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、職員が代行して支払いすることも多いが、できる方は自分で支払えるよう支援している。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームの電話を使う方、電話の取り次ぎが必要な方それぞれに合わせて希望があれば支援している。手紙の投函を職員で代行している方もおられる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことができるようになっていく。季節の掲示物、グリーンカーテンや植物等季節に合わせて利用者と一緒に取り組んでいる。一人で過ごせる環境と、複数で過ごせる環境もある。 (外部評価) 共用空間は南側にリビングとダイニングが分かれ、ゆったりとした広さである。掃出しの大きな窓がデッキに続いているので、より広く感じられる。共用空間は、ユニットのホールや居室の廊下も繋がっており、それぞれにちょっとしたコーナーになっている。いすが置かれているので、好きな場所で利用者が寛いでいる。台所がオープンであるため料理の匂いが漂い家庭的な雰囲気である。また、アンティークな家具が居心地の良い空間に仕上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 図書コーナーの設置は興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンカウンターやデッキ、ソファ等の配置により、思い思いの場所で自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスやソファ、テレビなど持ってこられており使われている。お位牌や家族の写真、塗り絵、絵画などを飾っておられる方もいる。必要時には家族も居室に泊れるようソファベッドも準備している。 (外部評価) 居室には介護用のベッドが備え付けられている。利用者の身体状況に配慮しベッドの配置は部屋によって異なっている。利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。また、洗面設備を各部屋に設えているので、口腔ケアだけでなく身繕いを自分の部屋で行うことができる。プライベート感が一層高まっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や車いす、Pトイレの位置など本人の力に合わせて設定している。夜間の照明の調整やトイレの表示、動線の確保等工夫している。ヒヤリハットが出た際は対策を話し合い、事故防止に努めている。	